

平和を誓う 同じことを繰り返さないために

8月6日に開催された広島平和記念式典に安平町から6名の「平和大使」が参加。世界で初めて原爆が投下された広島で見た平和記念資料館や原爆ドーム。碑めぐりガイドの方や語り部の方との出会いは、戦争を知らない彼らにとって「戦争と平和」について考える機会となりました。平和大使が抱いたそれぞれの思いと決意を紹介します。



平成 26 年度広島平和記念式典派遣事業スケジュール

- 8月5日 広島へ出発。到着後、平和記念公園内に千羽鶴をおさめた後、原爆ドームや広島平和記念資料館、広島城を見学。
- 8月6日 平成 26 年度広島平和記念式典に参加。式典後、碑めぐりガイドの平原氏と合流し記念碑巡りや語り部の塩冶氏から当時の様子を聞くなどして自主研修。
- 8月7日 帰町。



「戦争が変えた人々の生活」追分中学校3年 谷口柚香
 塩冶さんという方に戦争や原爆について教えていただきました。塩冶さんは5歳の時に被爆しています。その後も原爆による後遺症によって友達、そして妹を失うなど辛いことは続きました。塩冶さん自身も後遺症は残っています。塩冶さんが戦争によって負った傷は消えません。今は戦争を経験した人が少なくなっています。辛い思い出なので思い出したくない、という人もいます。戦争経験者が日本にいないなくなってしまった時、戦争の悲惨さを伝えていくことが今よりも難しくなってしまうと思います。今の日本からは想像できませんが、「絶対に起こらない」とは言い切れません。これから戦争を起こさないために、そして世界から戦争を無くすために私たち一人ひとりが戦争についてもっと知り、それを沢山の人々に伝えていくべきだと思います。これは簡単にできることではありません。しかし私はこれが世界の平和への一歩だと思えます。ですから、今回学んだこと、感じたことをこれからも多くの人々に伝えていき、少しでも世界の平和に貢献していきます。



「被爆した時の人々の様子」遠浅小学校6年 中倉宏太
 ぼくたちは広島に着いた初日に「平和記念資料館」へ行きました。この資料館では、被爆したたくさんの人たちの遺品などが展示されていました。その中で午前8時15分で止まったこの時計を見て、ぼくは「原爆が一瞬にして家など街のあらゆるものを破壊したんだ」と思いつても怖くなりました。2つ目は中学生の爪と皮膚や筋肉で、特に印象に残っています。亡くなった中学生のお母さんが資料館に提供してくれたものを展示していて、ぼくはそれを見てとても痛かったのではないかと思います。鳥肌が立ちました。
 広島で起こったような、たった一つの爆弾でたくさんの罪の無い人たちが傷つき命を失い、残された人たちの心にも体にも大きな傷跡を残すような悲劇を起こす戦争は、二度と起こしてはいけません。今回ぼくが知ったことは、これから戦争を知らない人たちに伝え続けていかなければならない、広島に行ったらぼくの使命だと思います。

紙面の都合により割愛しています。